

静神社の四匹の狐

(瓜連町)
昭和57年5月掲載

む

かし、静神社の森の中に、四匹の兄弟狐がすんでおりました。

名前は上から源太郎、甚二郎、紋三郎、四郎介といました。

ある日、狐たちが集って相談をしました。

「おれたちの仲間には、人間を困らせているものいる。

ひとつ罪ほろぼしに、おれたちの手で荒れ地をきりひらこう。」

ということになりました。

源太郎は静にとどまり

川を守ることにな

りました。

甚二郎は野を、

紋三郎は山を、

四郎介は海を守

ることになりました。

した。

四匹の狐は開拓

に勢を出し、や

がて村ができ、

城がたつようにな

りました。

そして四匹は守り神となり、源太郎は

瓜連城に、甚二郎は米崎城(那珂町)に、紋三郎は

笠間城に、四郎介は湊(那珂湊)にまつられたということです。

那珂郡瓜連町の静神社のあたりは、むかし静織の里ともよばれ、常陸の機織り

の発祥の地とも伝えられています。

